

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 25 年 2 月 14 日 (2013.2.14)

【公表番号】特表 2012-512925 (P2012-512925A)

【公表日】平成 24 年 6 月 7 日 (2012.6.7)

【年通号数】公開・登録公報 2012-022

【出願番号】特願 2011-541467 (P2011-541467)

【国際特許分類】

C 1 1 D 1/72 (2006.01)

C 1 1 D 1/34 (2006.01)

C 1 1 D 1/29 (2006.01)

C 1 1 D 1/06 (2006.01)

A 6 1 K 8/39 (2006.01)

A 6 1 K 8/36 (2006.01)

A 6 1 K 8/46 (2006.01)

A 6 1 K 8/55 (2006.01)

A 6 1 K 8/86 (2006.01)

D 0 6 L 1/12 (2006.01)

【 F I 】

C 1 1 D 1/72

C 1 1 D 1/34

C 1 1 D 1/29

C 1 1 D 1/06

A 6 1 K 8/39

A 6 1 K 8/36

A 6 1 K 8/46

A 6 1 K 8/55

A 6 1 K 8/86

D 0 6 L 1/12

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 12 月 17 日 (2012.12.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

界面活性剤混合物であって、

(A) アルカノールのアルコキシル化生成物を含有する短鎖の成分、この場合、該アルカノールは、8 ~ 12 個の炭素原子を有しているものであり、アルコキシル化生成物中のアルカノール基あたりのアルコキシ基の平均数は 0.1 ~ 3.0 の値であり、アルコキシ基は、 $C_2 \sim C_{10}$ -アルコキシ基であり、かつアルカノールは、少なくとも 1 の平均分岐度を有している、および

(B) アルカノールのアルコキシル化生成物を含有する長鎖の成分、この場合、該アルカノールは、15 ~ 19 個の炭素原子を有しているものであり、かつアルコキシル化生成物中のアルカノール基あたりのアルコキシ基の平均数は 0.1 ~ 3.0 の値であり、アルコキシ基は、 $C_2 \sim C_{10}$ -アルコキシ基であり、かつアルカノールは、少なくとも 2.5 の平

均分岐度を有している、

および / またはこれらのリン酸エステル、硫酸エステル、ならびにエーテルカルボキシレートを含む界面活性剤混合物。

【請求項 2】

アルコキシ基は、エトキシ基、プロポキシ基、ブトキシ基、およびペントキシ基からなる群から無関係に選択されていることを特徴とする、請求項 1 記載の界面活性剤混合物。

【請求項 3】

短鎖の成分 (A) および / または長鎖の成分 (B) に関して、それぞれのアルコキシル化生成物のアルコキシ基の総数に対するエトキシ基の割合は、少なくとも 0.5 であることを特徴とする、請求項 1 または 2 記載の界面活性剤混合物。

【請求項 4】

短鎖の成分 (A) の少なくとも 1 のアルカノールは、9 ~ 11 個の炭素原子を有することを特徴とする、請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項記載の界面活性剤混合物。

【請求項 5】

短鎖の成分 (A) の少なくとも 1 のアルカノールは、1.0 ~ 2.0 の平均分岐度を有することを特徴とする、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項記載の界面活性剤混合物。

【請求項 6】

長鎖の成分 (B) の少なくとも 1 のアルカノールは、16 ~ 18 個の炭素原子を有することを特徴とする、請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項記載の界面活性剤混合物。

【請求項 7】

長鎖の成分 (B) の少なくとも 1 のアルカノールは、2.5 ~ 4.0 の平均分岐度を有することを特徴とする、請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項記載の界面活性剤混合物。

【請求項 8】

成分 (A) および / または (B) に関して、アルコキシル化生成物中のアルカノール基あたりのアルコキシ基の平均数は、1 ~ 30 の値である、請求項 1 から 7 までのいずれか 1 項記載の界面活性剤混合物。

【請求項 9】

界面活性剤混合物中の短鎖の成分 (A) のモル割合対界面活性剤混合物中の長鎖の成分 (B) のモル割合の比率は、99 : 1 ~ 1 : 99 の範囲の値であることを特徴とする、請求項 1 から 8 までのいずれか 1 項記載の界面活性剤混合物。

【請求項 10】

請求項 1 から 9 までのいずれか 1 項記載の界面活性剤混合物を含む調製物。

【請求項 11】

請求項 1 から 9 までのいずれか 1 項記載の界面活性剤混合物を製造する方法であって、(a) アルカノール混合物をアルコキシル化する工程、この場合、該アルカノール混合物は、8 ~ 12 個の炭素原子を有するものであり、アルコキシル化生成物中のアルカノール基あたりのアルコキシ基の平均数は、0.1 ~ 30 の値であり、アルコキシ基は $C_2 \sim C_{10}$ -アルコキシ基であり、かつアルカノール混合物は、少なくとも 1 の平均分岐度を有する、

(b) アルカノール混合物をアルコキシル化する工程、この場合、該アルカノール混合物は、15 ~ 19 個の炭素原子を有するものであり、アルコキシル化生成物中のアルカノール基あたりのアルコキシ基の平均数は、0.1 ~ 30 の値であり、アルコキシ基は、 $C_2 \sim C_{10}$ -アルコキシ基であり、かつアルカノール混合物は、少なくとも 2.5 の平均分岐度を有する、および

(c) 工程 (a) および (b) で得られたアルコキシル化生成物を混合する工程を有する方法。

【請求項 12】

請求項 1 から 9 までのいずれか 1 項記載の界面活性剤混合物を製造する方法であって、(a) 8 ~ 12 個の炭素原子および少なくとも 1 の平均分岐度を有する第一のアルカノールの混合物と、15 ~ 19 個の炭素原子および少なくとも 2.5 の平均分岐度を有する第

二のアルカノールの混合物とを混合する工程、および

(b) 第一の混合物と第二の混合物とからなる混合物をアルコキシル化する工程、この場合、アルコキシル化生成物中のアルカノール基あたりのアルコキシ基の数は、0.1～3.0の平均値を有しており、かつアルコキシ基は、 $C_2 \sim C_{10}$ -アルコキシ基であることを有する方法。

【請求項 13】

乳化剤、起泡調節剤、湿潤剤、特に硬質表面用のもの、保湿剤としての、請求項 1 から 9 までのいずれか 1 項記載の界面活性剤混合物または請求項 10 記載の調製物の使用。

【請求項 14】

洗浄剤中での、硬質表面のクリーニングのための、化粧品、医薬品および農薬調製物中での、ラッカー、被覆剤、接着剤、皮革脱脂剤中での、テキスタイル産業、繊維加工、金属加工、食品産業、水処理、製紙工業、発酵又は鉱物加工のための、および乳化重合における請求項 13 記載の使用。